

# CASBEE神戸ver.3

## 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE神戸ver.3/CASBEE 建築（新築）2016年版 使用評価ソフト：CASBEE神戸ver.3/CASBEE-SD\_NC\_2016(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)神戸市西区伊川谷町有瀬介護施設	階数	地上4F
建設地	神戸市西区伊川谷町有瀬字石塚	構造	S造
用途地域	第一種・第二種中高層住居専用地域	平均居住人員	150人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年4月 予定	評価の実施日	2026年3月2日
敷地面積	4,180 m <sup>2</sup>	作成者	西山 謙吾
建築面積	1,075 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	3,550 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>温暖化影響チャート

標準計算  
①参照値 100%  
②建築物の取組み 84%  
③上記+②以外の 84%  
④上記+ 84%

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

### 3 CASBEE神戸 の重要項目

バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 ★★★★★ 3.0	Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 ★★★★★ 3.0 Q-2/2.4 信頼性 ★★★★★ 3.0	Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 ★★★★★ 3.0
配慮の概要	配慮の概要	配慮の概要
その他の配慮事項		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

**CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)**  
**(仮称)神戸市西区伊川谷町有瀬介護施設**

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>							0.40		-	<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>						<b>2.9</b>	0.15	<b>2.5</b>	1.00	<b>2.7</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.40	
1.2 遮音						<b>3.8</b>	0.40	<b>2.8</b>	0.40	
1 開口部遮音性能		(共通)遮音等級:T-2				5.0	0.40	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能						3.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	1.0	0.20	
1.3 吸音						<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20	
<b>2 温熱環境</b>						<b>2.5</b>	0.35	<b>2.8</b>	1.00	<b>2.6</b>
2.1 室温制御						<b>2.8</b>	0.50	<b>3.4</b>	0.50	
1 室温		(診療室)レベル1と3の中間値				2.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能		窓:レベル4 外壁:レベル5の為、レベル4にて評価				4.0	0.25	4.0	0.43	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						<b>1.0</b>	0.20	<b>1.0</b>	0.20	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>						<b>3.2</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.4</b>
3.1 昼光利用						<b>4.2</b>	0.30	<b>3.6</b>	0.30	
1 昼光率		(診療室)昼光率:2.77%(病室部)昼光率:1.15%				5.0	0.60	4.0	0.60	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						<b>2.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.30	
1 昼光制御		(診療室)バルコニー(庇) (病室部)カーテンレール 設置				2.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		(診療室)設計照度:500lx				<b>4.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15	
3.4 照明制御		(病室部)調光可能な照明器具の採用				<b>3.0</b>	0.25	<b>5.0</b>	0.25	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.1</b>	0.25	<b>3.1</b>	1.00	<b>3.1</b>
4.1 発生源対策						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質						3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気						<b>2.0</b>	0.30	<b>3.3</b>	0.38	
1 換気量		(病室部)基準の1.2倍以上の換気量を確保				3.0	0.50	4.0	0.33	
2 自然換気性能		(病室部)自然換気有効開口面積:居室床面積の1/10以上				-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理						<b>5.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御		建物内は禁煙予定としている				5.0	1.00	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>						<b>2.7</b>	0.40	<b>3.8</b>	1.00	<b>3.1</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性		(病室部)個室は全て10㎡以上及び多床室無し				-	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応						-	-	-	-	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>1.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観						-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画						1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理						<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		清掃が容易で防汚性に優れた部材を選定した				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		維持管理が容易な室の配置計画を行った				4.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.1</b>	0.30	-	-	<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.4</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		ビニルクロスの採用(耐用年数20年)				5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種全てにB種を採用				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		中央式空調設備を持たない				3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		②可能な限り排水系統分離 ⑦受水槽 緊急水栓有				4.0	0.20	-	-	
3 電気設備		④ア)に該当				3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		③ア)に該当				2.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.8</b>	0.30	<b>2.3</b>	1.00	<b>2.6</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>2.8</b>	0.30	<b>1.6</b>	0.50	
1	階高のゆとり		2.0	0.60	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	(診療室)壁長さ比率:0.25	4.0	0.40	1.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>		中央式空調設備を持たない	<b>2.8</b>	0.40		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		2.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>2.7</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30		-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		1)道路と距離を設け建物配置 2)道路沿いシンボルツリー配置	<b>3.0</b>	0.40		-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	<b>3.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	5)バルコニーを計画 6)建物周囲にメッシュフェンスを計画	<b>3.0</b>	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	9)煙突経由排熱設備設置無し	<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPIm=0.74	<b>5.0</b>	0.20		-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10		-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.81	<b>2.9</b>	0.50		-	<b>2.9</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20		-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1	モニタリング			-		-	
4.2	運用管理体制			-		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.6</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20		-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>		(居室内)洗面化粧台:JISIに基づく節水水栓 便器:節水型を採用	<b>4.0</b>	0.40		-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.6</b>	0.60		-	<b>3.6</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>		主要構造躯体におけるその他の対策:デッキ合成スラブを採用	3.0	0.11		-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.22		-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.22		-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		(特定調達品目の採用)路盤材・土間下断熱材・居室便座	5.0	0.22		-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			-	-		-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		OAフロアの採用	4.0	0.22		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.7</b>	0.20		-	<b>3.7</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>4.0</b>	0.70		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)	吹付A種1Hの断熱材を採用	5.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO2:84%	<b>3.6</b>	0.33		-	<b>3.6</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33		-	<b>3.0</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25		-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>		5)②潜熱回収型給湯器を採用	<b>3.0</b>	0.50		-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.0</b>	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	I1)職員通路付近に駐輪場 II)3)駐車場出入口を複数計画	4.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33		-	<b>3.1</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	騒音	規制対象外建築物	3.0	1.00		-	
2	振動	規制対象外建築物	-	-		-	
3	悪臭	規制対象外建築物	-	-		-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制			-		-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.7</b>	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2)広告物照明無し	4.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	